

## 自主調査研究報告 [継続報告]

## 北海道港湾における管理能力向上に関する研究 (継1B-2-④)

大分類	継1B
中分類	継1B-2

## 1. 目的

北海道の港湾管理体制は、苫小牧港及び石狩湾新港の管理組合形式を除き、市及び町による管理となっている。港湾管理者が担務する内容は、港湾運営に係る様々な行政事務、港湾施設の維持管理などに加えて、最近では国土強靱化やBCP等の防災対策の立案及び運用など多岐にわたっている。しかしながら、近年の財政状況のひっ迫に加え、職員特に港湾行政に精通した技術者不足が恒常化していることから、港湾管理・運営が十分に行えているとは言い難い状況にある。

このような状況において、港湾管理者が適正な港湾管理を実施する際に直面している諸課題を調査するとともに、当センターが培ってきた北海道港湾のハード・ソフトにかかる様々なノウハウ等を活かし、国（北海道開発局）などとも連携を図りながら、港湾管理者への支援方策を検討することを本研究の目的とする。

## 2. 実施内容

## (1)研究全体の実施内容

本研究の実施期間は令和3年度から5か年とし、全体の実施内容を以下に示す。

- ・道内の港湾管理の実態及び課題の把握
- ・支援課題の選定
- ・支援方策の検討
- ・具体的な支援（事例集や手引書の作成、アドバイザー派遣）

## (2)令和3年度の実施内容

令和3年度に実施した調査結果を以下に示す。

- ・基礎調査（資料調査）：港湾要覧（北海道開発局）から平成5年以降の港湾管理者の港湾関係職員数と技術系職員を整理した。技術系職員が地方港湾では殆どいないことや重要港湾でも在籍していない港湾があることが判明した。
- ・港湾管理者が抱えている課題の調査（重要港湾以上の港湾管理者（2港）へのヒアリング調査）：港湾施設の維持管理実施上の課題として、①維持管理（点検調査、補修）に関する負担（資金、人材）が大きく、点検調査も遅れ気味であること、②点検内容をどこまで簡略化してよいかわからないこと、③ガントリークレーンの維持管理に費用を要すること、④港湾計画改定に係る時間とお金が膨大である（国の補助金が無い）こと等があげられた。

## 3. 今後の対応

今年度の調査結果を踏まえ、令和4年度は以下の調査および意見交換を行う予定である。

- ・道内の港湾管理者（重要港湾、地方港湾）が抱えている課題の調査（5港程度）
- ・港湾施設点検診断方法に関する港湾コンサルタントとの意見交換（点検診断の実態、調査費用、点検診断の改善方策等、新技術（ICT、CIM等の点検診断への活用方策等）
- ・北海道開発局との意見交換